

カービュー マーケットウォッチ (2012年8月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金子 昭一）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

前年同月比42.3%増と乗用車全体で10カ月連続プラス！

12年 7月順位	12年 6月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	33,398
2	(2)	→	アクア	トヨタ	26,274
3	(3)	→	フィット	ホンダ	24,153
4	(8)	↑	カローラ	トヨタ	13,404
5	(4)	↓	ヴィッツ	トヨタ	13,138
6	(5)	↓	フリード	ホンダ	9,905
7	(6)	↓	セレナ	日産	9,214
8	(7)	↓	ステップワゴン	ホンダ	7,950
9	(10)	↑	デミオ	マツダ	6,483
10	(23)	↑	マーチ	日産	5,728
11	(9)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	5,554
12	(17)	↑	エスティマ	トヨタ	5,291
13	(11)	↓	パッソ	トヨタ	5,179
14	(26)	↑	インプレッサ	スバル	5,094
15	(15)	→	ヴォクシー	トヨタ	4,933
16	(16)	→	ウィッシュ	トヨタ	4,417
17	(20)	↑	キューブ	日産	4,290
18	(21)	↑	ソリオ	スズキ	4,156
19	(13)	↓	CX-5	マツダ	3,835
20	(14)	↓	アルファード	トヨタ	3,823

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■前年同月比 42.3%増と乗用車全体で 10 カ月連続プラス！

特に軽乗用車は 10 年同月比でも 32.2%増と絶好調

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した7月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は44万5239台、前年同月比142.3%（貨物車、バスを含む新車総数は51万3125台、前年同月比137.5%）と10カ月連続で大幅に前年を上回った。なかでも軽乗用車の伸びがダントツで、3ナンバー普通乗用車13万4147台／前年同月比40.7%増、5ナンバー小型乗用車16万1434台／同34.6%増に対し、軽乗用車は14万9658台／同53.4%増。東日本大震災前の10年7月と比べても、乗用車全体では5.9%増だが、3ナンバー車6%減、5ナンバー車2%減に対し、軽乗用車は32.2%増と大幅に伸びている。

10年7月はリーマンショック対策として実施されたエコカー補助金が終了間近となり、大きな駆け込み需要が発生していた。状況的には今年も同様だが、補助額が10年当時の10万～25万円（軽5万～12万5000円）より10万円（軽7万円）に減額されていることもあり、動きが鈍い。ただ7月に事業自動車用エコカー補助金が終了した普通トラック（積載量4t以上）販売は伸び率が大きく鈍化。乗用車市場についても補助金終了による反動減にどう対応していくかが注目される。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（日産マーチ輸入分のみ含む）は27万7910台、前年同月比は138.8%。メーカーブランド合計ではレクサス、マツダ、三菱、ダイハツが前年割れで、トヨタは15万2229台／前年同月比67.1%増だが、トヨタと同様に50%以上の伸び率を続けてきたホンダは4万5619台／35.7%増にとどまった。月間ランキングでは14カ月連続トップのトヨタプリウス（α含む）、2位トヨタアクア、3位ホンダフィット（シャトル含む）のトップ3は4カ月連続で変動なしだが、4位に5月にアクシオ、フィールダーがモデルチェンジしたトヨタカローラ（ルミオン含む）が上がってきた。前年同月比も114.7%増と好調だ。

軽自動車は貨物車を含めた全体でも18万4582台／前年同月比140.3%と10カ月連続のプラス。車名別ではホンダNBOXが2万1837台で、4カ月連続トップ。3／5ナンバー車を含めた乗用車合計ではホンダはトヨタの15万7190台に次いで7万1917台／前年同月比68.6%増と国内No.2の座を堅持している。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万7113台、前年同月比は122.2%で3カ月連続のプラス（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では2万3399台、同116.2%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が4517台／前年同月比135.4%で3カ月連続トップ、2位にはメルセデス・ベンツが2645台／同114.0%）が1ランクアップし、3位は2617台／同135.5%のBMW（ミニを除く）だった。4～8位のアウディ、ミニ、ボルボ、アルファロメオ、ルノーまで前年を上回り、伸び率ではアルファロメオが274.6%増（1～7月の前年同期比でも135.0%増）と群を抜いた高率となっている。

■ココも気になる！ その1

新車ラッシュで補助金終了の反動減をカバー？

08年のリーマンショックによる経済停滞、10年の公的支援策によるV字回復、11年の東日本大震災やタイ洪水による供給不足など、ここ数年大きく乱高下してきた国内クルマ市場。今年は昨年末に導入されたエコカー補助金と供給量アップなどにより、1～7月累計で346万481台、前年同期比51.0%増とリーマンショック前の07年をも上回る販売ペースとなっている。とはいえ、補助金終了による反動減も不安視されるところだが、7月のトヨタポルテノスペイドの投入を皮切りに怒濤の新車ラッシュで乗り切ろうとしている。

ポルテノスペイドの月間販売目標はともに4000台で、7月はほぼ1週間しか販売期間がなかったが、スペイドが2042台とまずまずの滑り出しとなっている。そして8月に入り、三菱がミラージュ、日産はセレナSハイブリッドを発表。ミラージュはすでに5600台の受注を集め、12年度中の販売目標3万台達成を目指し、セレナはSハイブリッド効果で年内10万台（1～7月累計で6万2320台、去年は年間で8万4359台）を狙うという。

このほか年内に限ってみても、トヨタが先日公開されたレクサスLSのマイナーチェンジとクラウンのモデルチェンジ、日産がノート、ティーダラティオ、ブルーバードシルフィのモデルチェンジ、ホンダが軽Nシリーズの派生モデルの投入とアコードのモデルチェンジ、マツダがアテンザのモデルチェンジ、スバルがインプレッサXVの投入とフォレスターのモデルチェンジ、三菱がアウトランダーのモデルチェンジ、スズキも予定を早め、9月にもワゴンRをモデルチェンジするなど、各メーカーとも積極的にニューモデルを展開する見通しだ。

補助金という他力ではなく、ニューモデル投入という自力で市場を盛り上げようとしているだけに、ニューモデルの出来もさることながら、その売れ行きにも注目したい。

■ココも気になる！ その2

世界No.1を目指し、VWが好調をキープ

昨年、国内で4年ぶりに年間5万台を突破し、12年連続輸入車ブランドNo.1となったVW。世界市場でもアウディやセアト、シュコダなどを含めたグループ全体で816万台、前年比14%増を達成し、トヨタを抜き、ゼネラルモーターズ（GM）に次いで世界No.2の座を奪取した。今年に入っても好調を維持し、国内では1～7月累計で3万3413台、前年同期比22.2%増、世界市場でもグループ全体の1～6月の上半期累計で445万台、同8.9%増、VWブランドの乗用車のみでは279万台、同10.2%増となり、中国市場とアメリカ市場で2ケタの高い伸び率を記録した。特にアメリカでは好調で、1～7月累計で24万5739台、同34.1%増となっている。

国内では販売の約50%を占めるゴルフ、ゴルフヴァリアントが好調で、7月単月で見てもVW全体で35.4%増となるなか、ゴルフが65%増、ヴァリアントは106%増を記録。さらにシヤランが43%増、6月に発売されたザ・ビートルも受注が2000台超と、まだまだ伸びしろを

感じさせる売れ行きだ。

もちろんニューモデル展開にも抜かりはなく、6月に投入した4WDのパサートオールトラックに続き、7月に4ドアクーペのCCを発売。新たなフラッグシップモデルの導入で、上級セグメントでも拡販を狙う作戦だ。さらに今秋にはニューコンセプトのコンパクトカー、UP!（アップ）が日本上陸の予定。ヨーロッパでは10月にもゴルフがフルモデルチェンジされるほか、アメリカ市場の主力モデルとなっているジェッタにハイブリッド仕様を設定し、年内にアメリカ市場で発売することがアナウンスされている。

世界市場における今年の上半期累計ではトヨタ（ダイハツ、日野を含むグループ全体）に52万台の差をつけられているが、積極的なニューモデル展開でどこまで迫れるか、年末まで目が離せない状況になりそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 総務部 広報チーム（pr@carview.co.jp）

tel：03-5859-6158 fax：03-5859-6180
